

【特別支援学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	佐賀県立大和特別支援学校
-----	--------------

達成度（評価）
A：十分達成できている（80％以上）
B：おおむね達成できている（60％以上80％未満）
C：やや不十分である（40％以上60％未満）
D：不十分である（40％未満）

1 前年度 評価結果の概要	・評価項目12中A評価が6項目、B評価が6項目、C評価が0項目だった。課題を整理して令和6年度の改善策を検討していく必要がある。 ・「自立活動の指導目標、指導内容、指導場面を明確にして授業を行った」「学年やグループで児童生徒の実態や授業の手立てについて話し合い、授業実践に役立てた」「卒業後の生活に必要な力をつけるための教育に努めていた」「支援部だよりへの教材教具等の資料の提供を通して、地域支援の一端を担った」の4項目が2点台のB評価となり、改善を図る必要がある。特に、自立活動の指導については、児童生徒個々の目標を達成できるように、令和6年度より設置した時間の指導の場面で確実に自立活動の指導を実施していく。また、職員全員が主体的に専門性を高めることができるように「一人一研究」に取り組む。 ・「業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減」については、毎週水曜日に実施している定時退勤の実施だけでなく、年次有給休暇取得の向上(14日以上)を目指して取り組んでいく。 ・「効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実」については、支援部だよりを年2回発行し地域の学校へ向けて指導・支援に役立つ情報提供を行った。地域の学校から示された要望をもとに情報提供の内容を改善していく。
------------------	---

2 学校教育目標	「たくましく自立し、積極的に社会に参加する人間の育成」 ・子ども一人一人のニーズに応じた最適な対応に努めることにより、子どもが自分の力を発揮しながら自立的・主体的に取り組む姿を実現し、将来の自立的・主体的な地域生活へつなげていく。
----------	--

3 本年度の重点目標	① 自立活動の指導の充実を図る。 ② 職員の特別支援教育に関する専門性の向上を目指す。 ③ 職員の意識改革や業務改善等を行い、働き方改革を推進する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

共通評価項目										主な担当者
評価項目	取組内容	重点取組 成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提案	
●学力の向上	○児童生徒一人一人に応じた自立活動の指導の充実	○(保護者成果指標)「子どもの自立活動の目標や活動状況について理解している」と回答した保護者の平均が82%以上 ○(職員成果指標)「自立活動の指導目標、指導内容を明確にして、時間の指導や教育活動全体の指導と関連づけて指導を行った」と回答した教職員の平均が80%以上	・保護者懇談会で、個別の指導計画を提示し活動状況を確実に伝える。 ・自立活動の自主研修を3回実施する。 ・学年主任や担任と連携し、自立活動の時間の指導を計画的に実施する。 ・自立活動の実践例を紹介する。							教育部
	○職員の特別支援教育に関する専門性の向上	○(保護者成果指標)「学校生活や授業を通して、子どもが生き生きと活動し成長を感じられている」と回答した保護者の平均が80%以上 ○(職員成果指標)「一人一研究の取り組みを通して、特別支援教育に関する専門性を高めることができた」と回答した教職員の平均が80%以上	・保護者懇談、授業参観、連絡帳などを通して教育活動について専門的見地からの提案を行う。 ・年間を通して教職員が一人一テーマで研究を行う。 ・1月に全体でポスターによる研究発表を行う。 ・特別支援教育の専門性に関する研修を2回実施する。							教育研究部
	○進路指導とキャリア教育の充実	○(保護者成果指標)児童生徒にとって、「卒業後の生活に必要な力をつけるための教育が行われている」と回答した保護者の平均が80.0%以上 ○(職員成果指標)「卒業後の生活に必要な力をつけるための教育に努めている」と回答した教職員の平均が75.0%以上	・学部別に保護者への進路講話や進路だよりなどの情報提供のための資料の充実を図る。 ・キャリアパスポートの活用状況を確認し、担当職員でフィードバックする場を設ける。							進路指導部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	(学校) ●(保護者成果指標)「お子様の思いやりや豊かな心を育む教育活動が実施されている」と回答した保護者の平均が80%以上 ●(職員成果指標)「互いに助けあったり協力したりする学習を行った」と回答した教職員の平均が80%以上 (寄宿舎) ●(保護者成果指標)「子どもの、相手を思いやる心や、協力する気持ちを育てる支援がされている」と回答した保護者の平均が80%以上 ●(職員成果指標)「思いやりの心や協力しようという気持ちを育てる支援を行った」と回答した職員の平均が80%以上	(学校) ・特別の教科道徳や特別活動、各教科等の授業で思いやりや豊かな心を育む教育活動の充実を図る。 ・交流及び共同学習や学校行事等で、他者と関わる場面を設定したり、多様な体験活動を実施したりする。 (寄宿舎) ・異年齢での集団生活や季節行事、自治活動を通して相互理解を図り、思いやりの心を育てる。 ・日々の生活を送る中で、自分自身や周りの仲間を大切にし、主体的に楽しく生活ができるようにする。							学習部 寄宿舎
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●学校は生徒間トラブルについて、早めに保護者に情報提供を行い、迅速な解決手段を取っていると回答した保護者の平均が75%以上 ●人権を大切にする言葉かけや人権の授業に取り組んだと回答した教職員平均が77.5%以上	・生徒間トラブルについては、学年主任、学部主事、生徒指導主事、管理職に報告し、具体的な解決手段や手立てを確実に保護者に伝える。 ・年に2回以上、人権に関する授業実践やいじめ、人権研修を計画し、実施する。							生活指導部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生は子どものよいところを認めてくれていると思う」と回答した保護者85%以上 ●「将来の夢や目標をもてるように授業を工夫した」と回答した教職員の平均が80%以上	・児童生徒の自己肯定感が高まるように、できていることを伝えたり、仲間同士で認め合ったりする場面を設定する。 ・児童生徒が「自分は人のために役に立っている」「現在の自分に満足している」「自分はできている」「自分は前向きに挑戦している」と感じることが出来る授業作りをする。							各学部
●健康・体づくり	●健康を考えて行動できる能力の育成	●本校は、「児童生徒の健康教育に努めている」と回答した保護者75%以上 ●「児童生徒が健康に気を付けた生活を心がけるように授業を工夫したり、日常生活の指導を行ったりした」と回答した教職員の平均が75%以上	・性に関する指導、食に関する指導、がん教育等の健康教育に関する授業の充実や日常生活の指導を実践する。 ・職員への授業実践例を紹介する。 ・外部講師による講演会の実施する。 ・保健だよりや給食だよりを通して学校での活動を保護者に伝え、家庭との連携を図る。							保健環境部
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	●支援部だよりや連携研修、巡回相談が役に立ったと回答した地域の学校の平均が75%以上 ●支援の工夫や研修会等への参加を通して地域支援に必要な専門性の向上に努めたと回答した教職員の平均が75%以上	・支援部だよりの発行や連携研修会を年に2回実施する。 ・地域の学校の要請に応じて巡回相談を実施する。 ・児童生徒の実態に応じて支援を検討し実践する。 ・校内外の研修会等に参加をし、専門性の向上の機会を設ける。							地域支援部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守し、年次有給休暇を14日以上取得したと回答した職員が85%以上。	・各主事や主任が中心となり業務の精選を行い、効率化を図る。 ・定時退勤日を設け、教職員への働きかけを行う。 ・ノー会議週間や長期休業中での年休取得を推進する。							管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											主な担当者
評価項目	重点取組内容	重点取組 成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提案		
○学校経営方針	○教育目標に即した教育の実践	(学校) ○「大和特別支援学校に入学させてよかった」と回答した保護者が85%以上 (寄宿舎) ○「大和特別支援学校の寄宿舎に入舎させて良かった」と回答した保護者が85%以上	(学校) ・子どもや保護者の気持ちを受け止め、子どもが今日の学び・学校生活に満足し、明日の学び・学校生活を期待する教育活動を実施する。 (寄宿舎) ・主体的に考えて活動できる力や社会生活を送るためのスキルを身に付けることができるような日常生活の支援を行う。							管理職 寄宿舎	
○ICT活用教育	○ICTを活用した児童生徒一人一人が「分かる、できる」授業づくり	○(保護者成果指標)「ICTを効果的に活用したことで、こどもの分かる、できることが増えた」と回答した保護者の平均が80%以上 ○(職員成果指標)「ICTに関わる研修を受講して、ICTを活用した授業作りや生徒支援に生かすことができた」と回答した教職員の平均が80%以上	・ICT機器を効果的に使用できるように、生徒の実態に合わせて、電子黒板や大型モニター等を、必要箇所に配置したり、iPadまたは学習用PCを配布したりする。 ・校内の研修では、ICTを授業で効果的に活用できるような実践事例の紹介や生徒の実態に応じて活用できるような事例紹介を行う。また、掲示板や回覧等でICT活用に関わる資料を紹介する。							教育情報部	

●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------